

第1回～第3回県民フォーラム意見報告書（平成20年5月15日提出）

1 はじめに

「水源環境保全・再生かながわ県民会議」（以下「県民会議」という。）は、水源環境保全・再生施策について、計画、実施、評価、見直しの各段階に県民意見を反映する仕組みとして設置された。

平成19年度は、「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」（以下「実行5か年計画」という。）に位置付けられた事業の実施初年度であることから、県民会議で県民意見を反映する仕組みの議論を重ね、その一つとして平成20年半ばを目途に、県民会議の構成員である公募委員が中心となって、選出された地域ごとの5地域で「水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」（以下「県民フォーラム」という。）を実施することとした。

県民フォーラムは次の3つのねらいをもって開催した。

- ① 県民に水源環境保全税やその使われ方を知っていただき関心を高めていただくこと。
- ② 事業実施に当たって、直接県民の意見を伺い、チェックを受け、その意見を集約し、県に提出すること。
- ③ 県民会議自身の活動についても理解してもらい、ともに水源環境の保全・再生を目指す仲間としてネットワークの形成を図ること。

そして、このたび平成19年度に行った3回の県民フォーラム結果を取りまとめたので、知事に対して中間報告を行うこととした。

なお、県民会議では、今年度さらに2回の県民フォーラムを開催し、今年度中に全5回の結果を取りまとめ知事に報告する予定である。

2 県民フォーラムの結果概要

第 一 回	地域	県西地域		
	日時	平成19年10月23日（火）18：30～20：30		
	会場	山北町立中央公民館 多目的ホール		
	企画責任者	片山幸男 瀬戸孝夫 高橋二三代		
	参加者数	250名		
	意見数	77件		
	内容	<p>○水源環境保全・再生施策の事業説明 県職員</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p>コーディネーター 横浜国立大学経済学部教授 金澤史男 氏 （県民会議座長）</p> <p>パネリスト 小田原山盛の会会長 大森良一 氏 （有）川又林業代表取締役 川又正人 氏 三竹里山の竹林を考える会会長 杉山精一 氏 山北町副町長 清水正己 氏</p>		

第二回	地域	県北地域
	日時	平成20年1月17日（木） 18：00～21：00
	会場	サン・エールさがみはら ホール
	企画責任者	石村黄仁 倉橋満知子 坂本勝津雄
	参加者数	182名
	意見数	54件
	内容	<p>○水源環境保全・再生施策の事業説明 県職員</p> <p>○事例報告・パネルディスカッション</p> <p>コーディネーター 旧津久井町長 天野 望 氏 (県民会議委員)</p> <p>パネリスト 県環境農政部森林課副技幹 日高荘一 氏 サトウ草木代表取締役 佐藤好延 氏 桂川・相模川流域協議会代表幹事 倉橋満知子氏 (県民会議委員) 麻布大学環境保健学部 滝沢康至 氏</p> <p>ミニコンサート シンガーソングライター 芳 晴 氏 (二胡奏者：相模原市藤野町在住)</p>
第三回	地域	県央・湘南地域
	日時	平成20年3月23日（日） 13：00～15：00
	会場	秦野市表丹沢野外活動センター 活動室
	企画責任者	真覚邦彦 吉村妙子 柳川三郎
	参加者数	110名
	意見数	38件
	内容	<p>○水源環境保全・再生施策の事業説明 県職員</p> <p>○市民事業支援制度の説明 日本大学経済学部准教授 沼尾 波子氏 (県民会議 市民事業等審査専門委員会委員長)</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p>コーディネーター 沼尾波子氏</p> <p>パネリスト 秦野市森林づくり課長 大津 徹氏 まほろば里山林を育む会代表 椎野恭治氏 金目川水系流域ネットワーク代表 柳川三郎氏 (県民会議委員) 県民会議委員 真覚邦彦氏</p>

3 県民フォーラム意見

(1) 森林の保全・再生事業に関すること

ア 森林整備の一層の促進を図っていただきたい。

森林整備の促進に関し、具体的な対策として

① 森林所有者が自ら行う整備に対する支援を手厚くする。

② 小規模森林所有者に対する支援を検討する

ことを検討していただきたい。

イ 森林整備の担い手対策を行い、質の高い技術者による整備を推進していただきたい。

森林整備の担い手対策に関し、具体的な対策として

① 1年を通じて仕事ができるよう仕事の平準化を図られたい。

② 森林整備の単価を状況に即して引き上げてもらいたい。

③ 森林技術者の育成のサポートをしてもらいたい。

④ 技術力の高い事業者が落札できるようにしてもらいたい。

⑤ 造園業者等他業界でも森林整備ができるようにしてもらいたい。

ウ 県産材・間伐材の一層の利用促進(住宅・家具への活用、バイオチップストーブの普及など)を図られたい。

(2) 水源環境への負荷軽減事業に関すること

ア 津久井地域の下水道普及率を上げてもらいたい。

イ 酒匂川取水堰から上流域の生活排水処理施設(浄化槽)設置への助成を行い、市町村設置型の浄化槽整備を促進してもらいたい。

(3) 情報の提供・理解の促進に関すること

ア 施策の必要性、事業実績や目標達成度などを分かりやすく情報提供してもらいたい。

イ 税金の支払われた実績や個々の税額などが分かるように示してもらいたい。

ウ 「水源環境保全は、長い時間と経費がかかる」ということへの理解の促進をしてもらいたい。

(4) ボランティア支援に関すること

ボランティアに対するアドバイスや情報交換などの支援をしてもらいたい。

(5) 県外上流域に対する事業に関すること

県外上流域対策の実施の検討や県外上流域との連携を図ってもらいたい。

(6) 水源地域の活性化等に関すること

中山間地域の農地の再生保全や農業・観光など地域産業等の育成や都市地域との交流を図り水源地域の活性化に取り組んでももらいたい。

第4回～第5回県民フォーラム意見報告書（平成20年12月18日提出）

1 はじめに

「水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」（以下「県民フォーラム」という。）は、水源環境保全・再生の取組について、県民の意見を幅広く収集するとともに、水源環境保全・再生に係る情報の提供・発信等を目的に「水源環境保全・再生かながわ県民会議」（以下「県民会議」という。）が開催するものである。

平成19年10月から県内5箇所にて順次開催し、平成19年度に開催した3回の県民フォーラムについては、参加者からの意見を取りまとめ、平成20年5月15日に知事に対して報告を行い、9月11日に県から報告に対する回答を受けている。

このたび平成20年度に開催した2回の県民フォーラムについて、参加者からの意見を取りまとめ、知事に報告するものである。

2 平成20年度県民フォーラムの結果概要

第 四 回	地域	横須賀・三浦地域
	日時	平成20年5月16日（金）18：30～20：30
	会場	ヴェルクよこすか ホール
	企画責任者	高橋弘二 田倉一由
	参加者数	74名
	意見数	17件
	内容	<p>○水源環境保全・再生施策の事業説明 県職員</p> <p>○横須賀の水道の現状と水源について 横須賀市職員</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p>コーディネーター 東京大学大学院工学系研究科教授 古米 弘明 氏 （県民会議委員）</p> <p>パネリスト 桂川・相模川流域協議会幹事 宮野 貴 氏 里の案内人 坂本 勝津雄 氏 （県民会議委員）</p> <p>NPO法人環境ファミリー葉山 安藤 忠雄 氏</p>
第 五 回	地域	横浜・川崎地域
	日時	平成20年7月31日（木）18：30～20：30
	会場	県民活動サポートセンター 2階ホール
	企画責任者	天内康夫 長谷川朝恵 牧島信一
	参加者数	91名
	意見数	29件

	内容	<p>○横浜・川崎地域の水源について 特定非営利活動法人神奈川県自然保護協会理事長 新堀 豊彦 氏 (県民会議副座長)</p> <p>○水源環境保全・再生施策の事業説明 県職員、秦野市職員</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p>コーディネーター 東京農工大学名誉教授 木平 勇吉 氏 (県民会議委員)</p> <p>パネリスト 県民会議委員 坂本 勝津雄 氏 NPO法人横浜里山研究所理事長 松村 正治 氏 横浜国立大学大学院 国際社会科学研究所博士課程後期 清水 雅貴 氏</p>
--	----	---

3 県民フォーラム意見

(1) 森林の保全・再生事業に関すること

県内林業従事者の育成を図ってほしい。

(2) 水源環境への負荷軽減事業に関すること

ア 公共下水道の未設置地区においては、市町村整備型の浄化槽整備を推進してほしい。

イ ダム集水域だけでなく、寒川取水堰上流における生活排水等への対策を推進してほしい。

(3) 情報の提供・理解の促進に関すること

ア 施策の必要性、事業実績や目標達成度などを具体的に分かりやすく情報提供してほしい。

イ 小学校・中学校の体験学習に取り入れるなど次世代を担う子供への啓発を促進してほしい。

ウ 県民一人一人が納付している税額を分かるように示してほしい。

第6回県民フォーラム意見報告書（平成21年3月27日提出）

1 はじめに

「水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」（以下「県民フォーラム」という。）は、水源環境保全・再生の取組について、県民の意見を幅広く収集するとともに、水源環境保全・再生に係る情報の提供・発信等を目的に「水源環境保全・再生かながわ県民会議」（以下「県民会議」という。）が開催するものである。

平成19年10月から平成20年7月にかけて県内5箇所にて順次開催し、参加者からの意見を取りまとめ、平成19年度分・平成20年度分の2回に分けて知事に対して報告を行ったところ、平成19年度分については平成20年9月11日に、平成20年度分については平成21年3月27日に県から報告に対する回答を受けている。

このたび平成21年2月11日に開催した総括的県民フォーラムにおける参加者からの意見を取りまとめ、知事に報告するものである。

2 第6回県民フォーラムの結果概要

テーマ	水源地・森林再生の第2ステージに向けて ～全国の経験から学び、全国に発信する～
日時	平成21年2月11日（水・祝）11：00～17：15
会場	杜のホールはしもと ホール
企画責任者	金澤史男、新堀豊彦、木平勇吉、高井正、田中充、萩原なつ子、森多可示
参加者数	326名
意見数	88件
内容	<p>○あいさつ 神奈川県知事、山梨県知事、相模原市長</p> <p>○基調講演 金澤 史男 横浜国立大学経済学部教授、県民会議座長</p> <p>○第1分科会「県民参加の施策展開をめざして－第2期計画へ向けて－」 コーディネーター：高井 正 財団法人東京市政調査会主任研究員 パネリスト：服部 薫 高知県森林部森林政策課課長補佐 鳴沢 和幸 鳥取県農林水産部森林保全課長 宮島 茂 山梨県森林環境部森林環境総務課長</p> <p>取組状況発表：神奈川県政策部土地水資源対策課職員 相模原市環境経済局環境保全部環境対策課職員</p> <p>○第2分科会「森林・水源環境保全・再生におけるNPOの役割を考える」 コーディネーター：鹿住 貴之 NPO法人JUON(樹恩)NETWORK事務局長 兼パネリスト パネリスト：有川 百合子 NPO法人みろく山の会理事 茅野 恒秀 財団法人日本自然保護協会</p> <p>○第3分科会「森林・水源環境保全・再生に向けて今求められる施策は何か」 コーディネーター：木平 勇吉 東京農工大学名誉教授、県民会議委員 パネリスト：佐土原 聡 横浜国立大学大学院教授 中村 太士 北海道大学大学院教授 山根 正伸 神奈川県自然環境保全センター専門研究員</p>

内 容	<p>○全体会 コーディネーター：金澤 史男 横浜国立大学経済学部教授、県民会議座長 パネリスト：片桐 務 NPO法人自然塾丹沢ドン会理事 中静 透 東北大学大学院生命科学研究所教授 諸富 徹 京都大学大学院経済学研究科准教授</p> <p>○フォーラム総括 新堀 豊彦 NPO法人神奈川県自然保護協会理事長、県民会議副座長</p>
-----	---

3 県民フォーラム意見

(1) 森林の保全・再生事業に関すること

- ア 森林再生に向けた人材の確保を早急に進めてもらいたい。
- イ 環境に矛盾しない林業の経済性を創出し、自立できる環境をつくってもらいたい。
- ウ 間伐材の利用促進を図ってもらいたい。まずは、行政が積極的利用を行う必要がある。
- エ 整備した私有林は、将来の木材の値上がり時に備え、販売権や土地の公有化を検討すべきである。

(2) 水源環境への負荷軽減事業に関すること

- ア 相模湖・津久井湖において、早急で抜本的なアオコ対策を行ってもらいたい。
- イ 単独浄化槽から合併浄化槽への切り替えを進めてもらいたい。

(3) 地下水の保全対策に関すること

里地里山の保全、湧水の保全が必要である。

(4) 情報の提供・理解の促進に関すること

- ア 施策の必要性、事業実績や目標達成度などを分かりやすく情報提供してもらいたい。
- イ 環境学習を積極的に行ってもらいたい。

(5) ボランティア支援に関すること

- ア 森林整備のための高額な道具や技術料などに対して、行政の支援が必要である。
- イ 身近に参加活動できる森林整備の場の提供が必要である。

(6) 県外対策に関すること

県が上流圏に助成し、山梨県と森林整備を進めてもらいたい。

(7) その他

- ア 水源環境を保全するためには、水源地域の発展も必要である。
- イ 水源保全施策は水源地域を支える生き物の保全を考えて取り組んでももらいたい。
- ウ この施策とはほかに丹沢大山の自然再生事業や森林再生50年構想など様々な取り組みが行われているが、連携して取り組んでももらいたい。
- エ 水源地域の残土処理場、ごみなどをなくしてもらいたい。

第7回・第8回県民フォーラム意見報告書（平成22年5月31日提出）

1 はじめに

「水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」（以下「県民フォーラム」という。）は、水源環境保全・再生の取組について、県民の意見を幅広く収集するとともに、水源環境保全・再生に係る情報の提供・発信等を目的に「水源環境保全・再生かながわ県民会議」（以下「県民会議」という。）が開催するものである。

平成19年10月から平成20年7月にかけて県内5箇所にて順次開催し、平成21年2月11日には総括的県民フォーラムを開催したところである。参加者からの意見を取りまとめ、平成19年度分、平成20年度分、及び総括的県民フォーラム分の3回に分けて知事に対して報告を行ったところ、平成19年度分については平成20年9月11日に、平成20年度分については平成21年3月27日に、総括的県民フォーラム分については平成21年8月3日に県から報告に対する回答を受けている。

このたび平成21年度に開催した2回の県民フォーラムについて、参加者からの意見を取りまとめ、知事に報告するものである。

2 平成21年度県民フォーラムの結果概要

	地域	横浜・川崎地域	
	日時	平成22年1月26日（火）18：30～20：30	
	会場	横浜市開港記念会館 講堂	
	企画責任者	井伊秀博 北村多津一 木下奈穂 久保重明	
	参加者数	205名	
	意見数	55件	
第7回	内容	○水源環境保全・再生施策の事業説明	県職員
		○パネルディスカッション	
		コーディネーター 立教大学社会学部教授	萩原 なつ子 氏
		(県民会議委員)	
		パネリスト 日本の竹ファンクラブ代表	平石 真司 氏
		かながわ森林インストラクターの会理事	武川 俊二 氏
		神奈川トヨタ自動車株式会社 渉外広報部長	金子 勝治 氏
		川崎市立宮崎小学校教諭	草開 朝央 氏

第 8 回	地域	湘南・県央地域
	日時	平成22年2月27日（土）13：00～16：00
	会場	藤沢リラホール
	企画責任者	岩渕聖 小林信雄 柳川三郎
	参加者数	131名
	意見数	71件
	内容	○水源環境保全・再生施策の事業説明 県職員 ○パネルディスカッション コーディネーター 東京農工大学名誉教授 木平 勇吉 氏 （県民会議委員） パネリスト 神奈川野生生物研究会副代表 川手 隆生 氏 丹沢大山自然再生委員会委員 羽澄 俊裕 氏 有限会社川又林業代表取締役 川又 正人 氏

3 県民フォーラム意見

第7回及び第8回県民フォーラムにおける個々の意見内容は資料（P4～12）のとおりである。このフォーラムには、県担当部局職員も出席し、議論に参加していただいているものであるが、これらの意見の中で県民会議として受け止め、特に重要な事項を項目ごとに次のとおり整理したので、県施策への反映を検討していただきたい。

また、個別意見の中の県施策に対する質問については、県民会議を通じて回答するので、県民会議へご回答くださるようお願いしたい。

（1）森林の保全・再生事業に関すること

- ア 間伐材の利用促進など、林業がビジネスとして成り立つような制度の整備を行ってほしい。安定的な収入を得られるよう準公務員のような制度についても検討してほしい。
- イ 日本の森林は水資源保全にとって大切な資源であるという視点に立ち、現場の声をもっと取り入れ、正しい間伐方法について研究するなど、かたよった森林づくりにならないようにしてほしい。
- ウ 森林塾の積極的なPRなどにより、森林再生に向けた人材の確保を進めてほしい。
- エ 市町村への助成金事業など、行政が実施する事業のチェックができるようなマニュアル作りを進めてほしい。
- オ 路や柵の整備・維持管理方法をもっと改善してほしい。

（2）水源環境への負荷軽減事業に関すること

ペットボトル水の多量な流通や水道局の高度処理は環境への負荷や費用がかかる。行政はもっと中長期的な視点に立ち、河川水や地下水の改善・保全に取り組んでもらいたい。

(3) 情報の提供・理解の促進に関すること

- ア 事業実施箇所への看板の設置、市民活動のイベントの広報、メディアなどによる周知・啓発など、県民にもっとPRしてもらいたい。
- イ 水源環境に対して、県民が気軽に参加し関心を持つことができるような身近な取組について検討してもらいたい。
- ウ 事業実績や目標達成度については、整備面積・整備率・予算の執行状況を示すだけでなく、効果を示すような資料を用いて説明を行い、県民が理解できるような方法でより広く公開してもらいたい。
- エ 県民に理解を深めてもらうため、県民と行政の役割を明確化してもらいたい。

(4) 環境教育に関すること

環境学習を学校教育（カリキュラム）に取り入れることや、県民が水源地域を視察できる機会を作るなど、積極的な環境教育を行ってもらいたい。

(5) 市民活動への支援に関すること

- ア 市民のボランティア活動や活動団体に対して、行政の支援が必要である。
- イ 生物多様性の大切さを理解し、協働していく方法について検討してもらいたい。

(6) 県外対策に関すること

県外上流域への対策として、水源環境保全税の県外投資を検討し、山梨県や静岡県と協力して水源環境整備に努めてもらいたい。

(7) その他

- ア フォーラムに参加して、水源林の管理や生物多様性のことなど、水源環境保全・再生の取組について知ることができて良かった。
- イ 環境保全に関しては、様々な方向からの取組とともに、調査研究にも力を入れてもらいたい。
- ウ 生態系の観点に立ち、適切な調査や取組を行ってもらいたい。
- エ シカ対策及び捕獲したシカの活用方法について検討してもらいたい。

第9回～第12回県民フォーラム意見報告書（平成23年5月30日提出）

1 はじめに

「水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」（以下「県民フォーラム」という。）は、水源環境保全・再生の取組について、県民の意見を幅広く収集するとともに、水源環境保全・再生に係る情報の提供・発信等を目的に「水源環境保全・再生かながわ県民会議」（以下「県民会議」という。）が開催するものである。

平成19年度から平成21年度にかけて県内8箇所において県民フォーラムを開催したところである。参加者からの意見を取りまとめ、平成19年度分、平成20年度分、総括的県民フォーラム分、及び平成21年度分の4回に分けて知事に対して報告を行い、県から報告に対する回答を受けている。

このたび平成22年度に開催した4回の県民フォーラムについて、参加者からの意見を取りまとめ、知事に報告するものである。

2 平成22年度県民フォーラムの結果概要

第九回	テーマ	酒匂川流域から見た水源環境保全・再生について
	日時	平成22年7月29日（木）18：30～20：50
	会場	小田原市生涯学習センターけやき 2階ホール
	企画責任者	片山幸男 高橋弘二 高橋二三代 増田清美
	参加者数	105名
	意見数	40件
	内容	<p>○水源環境保全・再生施策の事業説明 県職員</p> <p>○次期「かながわ水源環境保全・再生 実行5か年計画」に関する意見書について 高橋 弘二委員</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p>テーマ 酒匂川流域から見た水源環境保全・再生について</p> <p>コーディネーター 埼玉大学大学院理工学研究科教授 浅枝 隆氏 (県民会議委員)</p> <p>パネリスト 小田原市長 加藤 憲一氏 酒匂川を伝える会代表 小山田大和氏 NPO法人しのくぼ専務理事 稲葉 定義氏</p>
第十回	テーマ	桂川の水が神奈川県民の飲み水であることをご存知ですか？ ー桂川・相模川流域の環境保全に向けて、今、何が求められているかを考えるー
	日時	平成22年9月4日（土）13:30～16:00
	会場	山梨県大月市民会館 3階講堂
	企画責任者	井上伸康 倉橋満知子 高橋幸一
	参加者数	142名
	意見数	34件

第十回	内容	○山梨県の森林や生活排水への取組について ○神奈川県の水源環境保全・再生施策と 両県共同調査について ○相模湖・津久井湖の現状報告について ○山梨県事業関係者の活動報告について 山梨県北都留森林組合参事 ○パネルディスカッション テーマ 県民参加による県境を越えた流域環境保全 コーディネーター 東京農工大学名誉教授 (県民会議委員) パネリスト 桂川・相模川流域協議会代表幹事 多摩川源流研究所所長 神奈川県環境科学センター専門研究員	山梨県職員 神奈川県職員 神奈川県職員 中田 無双 氏 木平 勇吉 氏 河西 悦子 氏 中村 文明 氏 田所 正晴 氏
	テーマ	私たちの水はどこから来ているのか	
	日時	平成22年10月24日（日） 第1部13:30～15:30 第1部15:35～16:20	
	会場	川崎市総合自治会館 ホール	
	企画責任者	井伊秀博 北村多津一 木下奈穂 久保重明	
	参加者数	102名	
	意見数	19件	
第十一回	内容	【第1部】 ○水源環境保全・再生施策の事業説明 ○パネルディスカッション テーマ 私たちの水はどこから来ているのか コーディネーター 法政大学社会学部・同大学院 政策科学研究科教授 (県民会議委員) パネリスト コ・コア セントラル ジャパン株式会社 常務執行役員 広報・CSR推進部長 かながわ森林インストラクターの会理事長 日本ミクニヤ株式会社東京支店 環境防災部課長	県職員 田中 充 氏 島田 勝一 氏 島岡 功 氏 原田 智也 氏
		【第2部】 ○「第2期かながわ水源環境保全・再生 実行5か年計画（骨子案）」の説明と意見交換	県職員

第十二回	テーマ	森林とシカの一体管理（野生動物との共存）
	日時	平成23年2月6日（日）第1部13:30～15:50 第2部16:00～16:55
	会場	伊勢原市FORUM246 4階大研修室
	企画責任者	岩渕聖 小林信雄 柳川三郎
	参加者数	122名
	意見数	34件
	内容	<p style="text-align: center;">【第1部】</p> <p>○水源環境保全・再生施策の事業説明 県職員</p> <p>○基調講演 丹沢自然保護協会理事長 中村 道也 氏 (県民会議委員)</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p> テーマ 森林とシカの一体管理（野生動物との共存）</p> <p> コーディネーター 東京農工大学名誉教授 木平 勇吉 氏 (県民会議委員)</p> <p> パネリスト 伊勢原森林里山研究会理事長 山口 寿則 氏 伊勢原市森林組合代表理事専務 平田 光一 氏 丹沢自然保護協会理事長 中村 道也 氏 (県民会議委員)</p> <p style="text-align: center;">【第2部】</p> <p>○「第2期かながわ水源環境保全・再生 実行5か年計画（素案）」の説明と意見交換 県職員</p>

3 県民フォーラム意見（第9回～第12回）

（1）森林の保全・再生事業に関すること

- ア 自然林は整備する必要はないが、人工林は整備する必要がある。人工林の荒廃状況は県民にとってわかりにくいものであるが、下草植生の後退や土壌の乾燥などは問題である。水源環境保全税により、今後も森林整備事業を拡充してもらいたい。
- イ 森林の再生を効果的に行うためには、行政としての取組、リーダーシップが重要である。
- ウ かながわ森林塾について、「第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」への位置づけと適切な目標設定を行ってもらいたい。
- エ 有効的なシカ対策と捕獲したシカの活用方法について検討してもらいたい。
- オ 生物多様性のある水源地づくりを行ってもらいたい。
- カ 間伐材の有効活用について検討してもらいたい。

（2）水源環境への負荷軽減事業に関すること

- ア 身近な用水路などの浄化対策は定期的なメンテナンスを必要とする。学生のクラブ活動やボランティアなど、市民の力を借りた取組を検討してもらいたい。
- イ ダム湖の水質改善策にあたり、上流域の下水道対策に加えて、ダム湖に流入・蓄積す

る自然流入有機物等の削減をはかるなど、現在取り組んでいるエアレーションシステム以外にも、さまざまな策を検討してもらいたい。

(3) 情報の提供・理解の促進に関すること

老若男女を問わず、もっと広く県民にPRしてもらいたい。

(4) 環境教育に関すること

学校教育課程の中に位置づいた環境学習を行ってもらいたい。

(5) 市民活動への支援に関すること

ア 若い世代が活動に参加するような取組を検討してもらいたい。

イ 市民事業支援補助金制度を継続してもらいたい。

ウ 市民やNPOが継続的・発展的に活動している状況を県民に知らせてもらいたい。

(6) 県外対策に関すること

ア 県境を越えて流域一体となって森林整備や環境保全活動等の問題を解決する仕組みを構築し、県外上流域の対策に取り組んでももらいたい。

イ 神奈川県の水源環境保全税を県外上流域対策に使う場合、神奈川県民を説得するだけの裏付が必要である。

(7) その他

ア フォーラムに参加して本当に良かった。体験型の参加企画などがあるとよい。

イ 水を有効活用するための施策について検討してもらいたい。

ウ 今後も地道な啓蒙活動を続けて行くことが肝要である。

エ 県民がよく理解し、取組に参加することが一番大切であるため、県から働きかけをしてもらいたい。

第13回県民フォーラムにおける主な県民意見

1 平成23年度 第13回県民フォーラム（大規模フォーラム）の結果概要

第 十 三 回	テーマ	いのち輝く水を次世代に引き継ぐために
	日時	平成23年8月27日（土）13：30～16：40
	会場	はまぎんホールヴィアマーレ
	参加者数	361名
	意見数	119件
	内容	<p>○基調講演「当たり前暮らしを求めて」 脚本家 倉本 聡 氏</p> <p>○水源環境保全・再生施策の事業説明 DVDの上映</p> <p>○第2期かながわ水源環境保全・再生 実行5か年計画案の説明 神奈川県職員</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p style="padding-left: 20px;">テーマ いのち輝く水を次世代に引き継ぐために ～水源環境保全・再生の第2期の取組に向けて～</p> <p style="padding-left: 20px;">コーディネーター 東京農工大学名誉教授 木平 勇吉 氏 (県民会議委員)</p> <p style="padding-left: 20px;">パネリスト 東京大学大学院工学系研究科教授 古米 弘明 氏 サントリーホールディングス(株)エコ戦略本部部長 シニアスペシャリスト 山田 健 氏 東京市政調査会主任研究員 高井 正 氏 生命の星・地球博物館学芸員 勝山 輝男 氏</p>

2 県民フォーラム意見

(1) 森林の保全・再生事業に関すること

山の整備が進むにつれて、獣害も増えると思われるので効果的な立案を願う。

(2) 県外対策に関すること

神奈川の水はダムから供給されている量が多いのでアオコ対策、流入する汚濁対策も第2期でしっかり進めてもらいたい。湖沼としての基本をきちんとクリアしていくこと。

第14回県民フォーラム意見報告書（平成24年5月30日提出）

1 はじめに

「水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」（以下「県民フォーラム」という。）は、水源環境保全・再生の取組について、県民の意見を幅広く収集するとともに、水源環境保全・再生に係る情報の提供・発信等を目的に「水源環境保全・再生かながわ県民会議」（以下「県民会議」という。）が開催するものである。

平成19年度から平成23年8月までに、県内13箇所において県民フォーラムを開催したところである。参加者からの意見を取りまとめ、知事に対して報告を行い、県から報告に対する回答を受けている。

このたび、平成24年3月4日に開催した第14回県民フォーラムについて、参加者からの意見を取りまとめ、知事に報告するものである。

2 平成23年度 第14回県民フォーラムの結果概要

第十四回	テーマ	相模湖・津久井湖の水源環境を考えよう！ ～県域を越えた森林整備・アオコ問題への取組～
	日時	平成24年3月4日（日）13：00～16：00
	会場	相模湖交流センター 多目的ホール
	企画責任者	井上伸康 北村多津一 木下奈穂 倉橋満知子
	参加者数	123名
	意見数	52件
	内容	<p>○基調講演「アオコが消えた諏訪湖に学ぶ」 信州大学山岳科学総合研究所教授 花里 孝幸 氏</p> <p>○水源環境保全・再生施策の事業説明 DVDの上映</p> <p>○第2期かながわ水源環境保全・再生 実行5か年計画の説明 神奈川県職員</p> <p>○パネルディスカッション</p> <p>テーマ 相模湖・津久井湖の水源環境を考えよう！ ～県域を越えた森林整備・アオコ問題への取組～</p> <p>コーディネーター 埼玉大学大学院理工学研究科教授 浅枝 隆 氏 (県民会議委員)</p> <p>パネリスト 信州大学山岳科学総合研究所教授 花里 孝幸 氏 相模原市議会副議長 野元 好美 氏 桂川・相模川流域協議会 さがみはら地域協議会代表 有井 一雄 氏 山梨県北都留森林組合参事 中田 無双 氏</p>

3 県民フォーラム意見

(1) 森林の保全・再生事業に関すること

外国資本による資源地域の土地買収について、具体的にどのような影響が出るのかをシミュレーションし、早期に対策を講ずることが大事である。

(2) 水源環境への負荷軽減事業に関すること

相模湖（津久井湖）におけるアオコ発生状況について周知した上で、相模湖集水域における下水処理対策の必要性を認識していただく必要がある。

(3) 情報の提供・理解の促進に関すること

水源環境保全・再生施策の取組は、まだまだ県民に理解されていないと思われる。効果的に情報提供する必要がある。

(4) 市民活動の支援に関すること

水源環境保全・再生には県民の協力が不可欠である。県民一人ひとりの日常生活における工夫で水源環境保全に貢献できるような情報を、発信していく必要がある。

(5) 県外対策に関すること

相模湖（津久井湖）におけるアオコ発生の主な原因は、相模湖周辺のみならず山梨県側から流入する生活排水である。県境を越えて流域一体となって下水道整備や浄化槽の設置促進を図るなど、県外上流域の対策に取り組む必要がある。

(6) その他

ア 水源環境保全税が有効に使われているのか否か、水源環境保全・再生事業の事後並びに事前評価が検討できる仕組みづくりが必要だと思う。

イ 県境を越えて流域一体となって、水源環境保全・再生施策を長期にわたる継続的な取組が必要である。